



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	豪州流沿岸域管理を学ぶ
Author(s)	敷田, 麻実
Description	石川版朝刊10版25面掲載、金沢アンダンテ
Citation	朝日新聞
Issue Date	2003-08-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34966
Rights	本著作物は、朝日新聞社の許可のもとに掲載しています。朝日新聞社の許可なく内容の全部又は一部を転載することを禁じます。承諾番号25-2832
Type	article
File Information	1282.pdf



敷田 麻実

②

豪州沿岸域
管理を学ぶ

食を学ぶ

題字は五木寛之氏

飛行機の高度がぐんぐん下がって、凪いだ海のもとに赤茶色の地面が広がった。

飛行機は豪州北部の大都市タウンズビルの空港に

下がり、凪いだ海のもとに赤茶色の地面が広がった。

飛行機は豪州北部の大都市タウンズビルの空港に

仕事の基礎、11ヶ月で

到着した。タラップを降りて滑走路に立つと、椰子の木や熱帯植物がまぶす目に入る。期待が高まる半面、心の中の不安はいやおうなしに膨らんだ。

オーストラリアで、私の

オーストラリアで、私の

いう気持ちが増しに強くなった。

ちようどその頃、「沿岸域管理」という言葉を知った。海の環境を保全しながら、海をうまく利用する、実用的な分野に思えた。沿岸域管理は、環境保全と海の利用を調和させるマジックワードだった。しかし日本

の大学院で沿岸域管理を学べるころはなかったの

かし、県から留学許可をもらうことはそう簡単ではな

かった。人事課からは、「地方公務員が1年間勝手に海外留学なんてまかりならん、やめてから行ってくれ」と言われた。

一応は検討するということになり、最後になって許可が出た。時代は大きく変わっており、「地方自治体の国際化」の流れも味方

で、自然と海外での勉強を選択した。

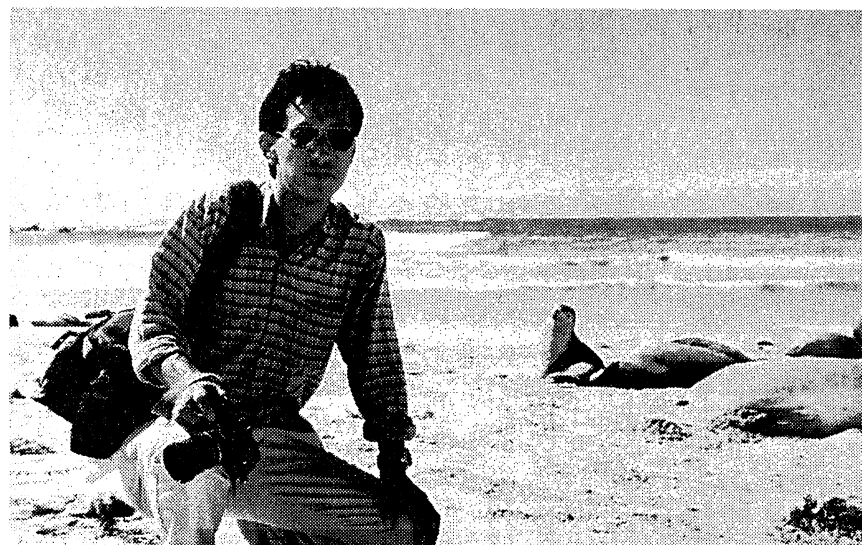
留学先は、アメリカにせず、わざわざオーストラリアを選んだ。幸い、時を同じくして、大学院で1年間

学ぶ奨学金が得られた。し

てくれた。もちろん、この留学で得たものは大きかった。現在の仕事の基礎的な部分は、ほとんどこの留学中に学んだ。

勉強は予想以上に大変だったが、留学中に嬉しいこ

とも多かった。中でも一番管理学の最後の講義で、私



嬉しかったことは、沿岸域の発表を聞いていた豪州の

留学先の豪州は環境に優しいエコツアアの先進国。アザラシの群れに近づける海岸もある。豪・カンガルー島で(敷田さん提供)

学生が、終わつた後です。たとえ私に歩み寄り、「その資料をコピーさせてくれ」と言ってきたことだった。講義室を出ると、豪州特有の澄んだ青空が広がっていた。日本晴れだ、と思った。

巡り合わせとは不思議なものだ。留学中の1990年、京都府の沿岸では貨物船が座礁し、油が海に流出していた。友人が送ってくれた新聞記事でそのことを知ったが、数年後に自分が重油流出事故の担当者になることは夢だに思わなかった。

(金沢工業大学教授)